

歴史民族資料館講座

安徳天皇の四国潜幸秘史～安徳天皇は壇ノ浦に行っていなかった～
 日時 10月13日(土) 13:30～15:30
 場所 歴史民族資料館
 講師 細川幹夫さん(麗澤大学名誉教授・『安徳じゃが浮かびたい』著者・高知県出身)
 定員 150人(先着順)
 料金 入館料(500円、高校生以下無料)のみ
 問い合わせ・申込先 ☎088-862-2211

観光協会イベント

平家伝説ツアー
 ～香美の山々に秘められた、悲劇の幼帝の足跡を辿る～
 日程 10月27日(土)
 集合場所～高板山陵墓ほか(予定)
 集合場所 バリューノア 駐車場 8:00、JR土佐山田駅 8:10の予定
 料金 未定
 申込期限 10月19日(金) ※申し込み多数の場合は抽選
 問い合わせ・申込先 香美市いんふおめーしょん ☎52-9880

ささふげんどう 笹普賢堂

高板山の北東にあり、安徳天皇陵墓の鬼門を守っているといわれている。境内の立て札には「応永2年(1395)普賢菩薩の仏像を奉持した脇立に不動・毘沙門があり、南路誌に宝永5年(1708)建立と記されている」と書かれている。



安丸城跡八幡宮

安丸城跡八幡宮(物部町安丸)は代々安丸家が祀っており、平家の家紋であるアゲハチヨウの紋章付き鏡(直径約10cm)が伝わっているが江戸時代に作られたレプリカである。現在は地元管理。



ございしょやま にろうやまづみじんじや 御在所山 葦生山祇神社

普通神社は南北方向に建てられるが、御在所山の山頂にある葦生山祇神社は、東北方向に見える高板山の方向を向いて建立されている。大山祇命・安徳天皇・清盛の弟平教盛が祀られている。

本殿の扉には天皇家の紋章である十六花卉菊と五三の桐が施されている。このため、この神社は安徳天皇陵墓を拜む場所として建てられたのではないかとされている。



▲神社正面



▲葦生山祇神社の本殿

御在所山には、頂上に安徳天皇陵墓があるという伝説も残っており、安徳天皇のお付きといわれる147人の塚がある。また御在所山は、もともと御宰相山と呼ばれており、この御宰相はこの山に葬られたといわれる門脇宰相(平教盛)からきているといわれる。

これもり 平維盛の墓

物部町仙頭野竹にある平維盛(清盛の孫)が眠るといわれる墓。大崩壊により所在が分からなくなっていたが、近年になり発見された。墓の周囲の石は縦に積まれている。



平家の岩屋

物部町岡ノ内にある岩穴で、上葦生筋に仮宮を営む安徳帝の部隊を守護するため、源氏方をかく乱しながら榎山筋に潜行した平資盛(清盛の孫)一行が隠れ住んだといわれ、写真の岩穴の近くで長く潜伏したといわれている。(関連25ページ香美史探訪記)

※この岩屋を訪れるためには、民有地を通らなければなりませんので、所有者の許可を得ずに行くことはできません。



おわりに
 安徳天皇の陵墓といわれる地は全国に数多くあり、県内にも宮内庁指定の安徳天皇陵墓参考地が越知町横倉山にある。しかしながら、高板山にも陵墓跡があり、数々の伝説が市内各地に伝わり、長年にわたる信仰が続いているという事は間違いないものである。

多弁などに共通するものがある。
 市内における安徳天皇にまつわる伝説は物部町内のみでなく、香北町内にも多くある。上にある御在所山や、妖怪を鎮めるために兜の鉢を頂上に埋めたということから名のついた鉢ヶ森。川の内地の宮の奈路には安徳天皇の御陵があるといわれている。
 また、日ノ御子地区には安徳天皇一行にまつわる地名が多く残り、天皇と平教盛の娘との間に数人の子どもが生まれたという言い伝えがある。安徳天皇の子は日ノ御子とあがめられ、その棺と思われるものも発見されている。

長らく高板山の安徳天皇陵墓御蹟大明神はその所在が分からなくなっていたが、近年になり、安徳天皇一行の子孫といわれる安丸家の古文書(現在焼失)に書かれていた通りの状態で発見された。
 周辺に存在する神社や寺の故事来歴も明らかにされるようになり、平家の里として、この地がわかになり上げられるようになってきた。
 余談かもしれないが、先の伝承を裏付けるように葦生郷筋には為近・門脇・久保などお供した人々を祖とすることを思わせる姓が多く、榎山筋には平資盛伝承のように小松姓や資盛に從つたとされる宗石等の姓を持つ人が多く、資盛らが隠れ住んだとされる岡ノ内にある平家の岩屋などの遺跡も伝えられている。(関連25ページ香美史探訪記)
 さらに、香美市の山間部の人々が交わす土地言葉は平野部の土佐弁と異なり、柔らかくたおやかな響きを持つ。関白一条公の南向された中村などで使われる幡